

## 製品名: MMP-14 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab13981

研究使用のみ

### 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

### 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	65kDa

### 抗原情報

遺伝子名	MMP14
別名	MMP14; Matrix metalloproteinase-14; MMP-14; MMP-X1; Membrane-type matrix metalloproteinase 1; MT-MMP 1; MTMMP1; Membrane-type-1 matrix metalloproteinase; MT1-MMP; MT1MMP
遺伝子 ID	4323.0
SwissProt ID	P50281
免疫原	抗血清はヒト MMP-14 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 471-520

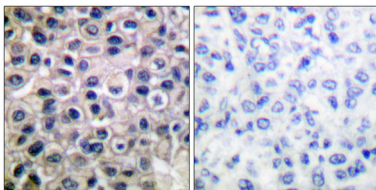
### 背景

マトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) ファミリーのタンパク質は、胚発生、生殖、組織リモデリングといった正常な生理過程、ならびに関節炎や転移といった疾患過程における細胞外マトリックスの分解に関与しています。ほとんどの MMP は不活性なプロタンパク質として分泌され、細胞外プロテアーゼによって切断されると活性化されます。しかし、この遺伝子によってコードされるタンパク質は膜型 MMP (MT-MMP) サブファミリーに属します。このサブファミリーの各メンバーは膜貫通ドメインを有することから、これらのタンパク質は分泌型ではなく細胞表面で発現していると考えられます。このタンパク質は MMP2 タンパク質を活性化し、この活性は腫瘍浸潤に関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: エンドペプチダーゼ活性。プロペプチドの 37-Asn-|-Leu-38 を切断することにより、プロゼラチナーゼ A を活性化します。加水分解される他の結合には、コラーゲナーゼ 3 のプロペプチド内の 35-Gly-|-Ile-36、アグリカン球間ドメイン内の 341-Asn-|-Phe-342、441-Asp-|-Leu-442、および 354-Gln-|-Thr-355 が含まれます。補因子: サブユニットあたり 1 個の亜鉛イオンを結合します。補因子: カルシウム。ドメイン: システインスイッチモチーフに存在する保存されたシステインは、触媒亜鉛イオンと結合して酵素を阻害します。活性化ペプチドの放出により亜鉛イオンからシステインが解離し、酵素が活性化されます。機能: プロゼラチナーゼ A を特異的に活性化すると考えられます。そのため、腫瘍細胞表面でプロゼラチナーゼ A を活性化することにより、腫瘍細胞の浸潤を誘発する可能性があります。PTM: 前駆体は、フォーリンエンドペプチダーゼによって切断されます。類似性: ペプチダーゼ M10A ファミリーに属します。類似性: 4 つのヘモペクシン様ドメインを含みます。細胞内局在: ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画中の質量分析によって同定されました。組織特異性: 結腸、乳房、頭頸部の間質細胞。

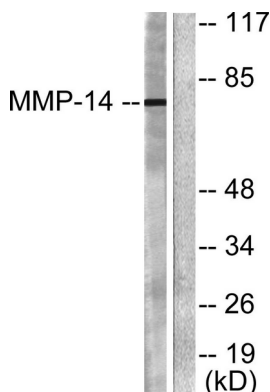
## 研究分野

GnRH;

## 画像データ



MMP-14 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



MMP-14 抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。